

社会福祉法人白寿会 令和2年度事業報告書

【法人理念】

ともに暮らし、ともに喜び
ともに支え、ともに生き
ともに高め、ともに歩む

【基本方針】

- 1、ご利用者がその人らしく過ごせるよう心に寄り添い、喜びを分かち合います。
- 1、地域と力を合わせ、住みよいまちづくりに貢献します。
- 1、職員が互いに高め合い、いきいきと働ける職場をつくりまします。

令和2年度は、一年を通しコロナに明けコロナに暮れた年度であった。

施設入居者、デイサービス利用者及び職員への感染防止を徹底するため、検温、手指消毒の徹底、オンライン面会の導入、3密を避ける新たな生活様式の周知など、あらゆるリスクを洗い出し、考える限りの手段を講じて対応を進めてきた。

このため、特養の新規入居手続きも、感染拡大の波に合わせて慎重にならざるを得ない時期が幾度もあり、また、デイサービスでも、利用者の利用控えの事例が散見されるなどにより稼働率への影響も生じた。

一方、コロナ禍で落ち着かない状況ではあったが、将来を踏まえた必要な人材の確保と育成に力点を置くとともに、処遇の改善、介護ロボット・インカム等職場のデジタル化や介護業務の分業化、勤務時間の多様化など職員の働き方の改革に特に力を注いだ。

また、当法人の経営は第1期5ヶ年経営計画の最終年度に当たり、5年間の実績と課題を踏まえ、介護を取り巻く情勢や地域のニーズを把握して、法人の未来を見据え、令和3年度を期初に最終の7年度に在宅系施設の開設を目標に掲げた、第2期の5ヶ年経営計画を策定した。

これらの事業を進めた結果、収入面では、一昨年度開設した認知症型デイサービスはつらついぶきのフル稼働化や居宅介護支援事業所の組織強化による収入増、並びにコロナ対策、ロボット・ICT導入にかかる補助金収入増により総収入額は一昨年度に比較し概ね47百万円余増加した。

一方、総支出額は、人件費、特に外国人技能実習生を含む非常勤職員の雇用増による人件費支出の増、コロナ対策やICT導入にかかる事業費、事務費支出の増加等により、一昨年度との比較で概ね49百万円余増加した。

これにより、令和2年度の収支差額は、5百万円の黒字となり、対前年度比1,749千円の減収となった。

法人全体

(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額
令和2年度	878,012	872,953	5,059
令和元年度	830,504	823,696	6,808
平成30年度	829,733 (787,836)	823,655 (781,752)	6,078 (6,084)
平成29年度	765,139	754,040	11,099
平成28年度	748,583	720,078	28,505
平成27年度	665,831	656,834	8,997

特別養護老人ホーム（本館・別館・ほのぼのいぶき・短期）(単位：千円)

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和2年度	778,621	779,084	△463	96.0
令和元年度	749,212	733,781	15,431	96.8
平成30年度	781,896 (739,998)	776,243 (734,279)	5,653 (5,719)	97.1
平成29年度	719,193	714,405	4,788	95.6
平成28年度	715,461	685,904	29,557	97.4
平成27年度	634,488	627,697	6,791	98.7

デイサービス（ぽかぽかいぶき）

（単位：千円）

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和 2 年度	30,507	29,885	622	91.8
令和 元年度	29,070	29,798	△728	90.6
平成 30 年度	31,504	28,259	3,245	97.4
平成 29 年度	34,087	23,030	11,057	96.9
平成 28 年度	21,481	21,466	15	88.0
平成 27 年度	21,907	19,952	1,955	94.6

認知対応型デイサービス（はつらついぶき）

（単位：千円）

	総収入額	総支出額	収支差額	稼働率(%)
令和 2 年度	41,100	34,364	6,736	91.3
令和 元年度	29,959	35,718	△5,759	85.3

※ 平成30年度の（ ）内は、本館大規模修繕の国庫補助金にかかる特別増減分を除く金額を、他年度との収支比較のために記載している。

※ 特別養護老人ホームとデイサービスの他に、本部拠点区分、居宅サービス区分、在支サービス区分があるため、特別養護老人ホームとデイサービスの総収入額、総支出額、収支差額のそれぞれを合算した金額は法人全体の金額と一致しない。

I 将来を展望した法人経営の推進

(1) 理事会、評議員会の開催

開催年月日	審議内容
第1回 理事会 令和2年6月2日	「令和元年度社会福祉法人白寿会事業報告について」等 議案4件、報告4件
定時評議員会 令和2年6月22日	「令和元年度社会福祉法人白寿会事業報告について」等 議案1件、報告4件
第2回 理事会 令和2年11月9日	「令和2年度社会福祉法人白寿会収入支出補正予算について」等 議案5件、報告4件
第3回 理事会 令和2年12月21日	「新規事業用地の取得にかかる仮契約の締結について」 議案1件
第4回 理事会 令和3年2月8日	「令和2年度社会福祉法人白寿会収入支出補正予算について」等 議案1件、報告3件
第5回 理事会 令和3年3月22日	「社会福祉法人白寿会処務規程の一部改正について」等 議案13件、報告1件

(2) 監事監査

開催年月日	出席監事
令和2年5月15日	溝口 孝 山田 光義

(3) 主な契約事業

契約項目	業者名	選定方法	年間契約金額(税抜)
浄化槽 維持管理	(株)光商会	随意契約	2,226,000円 (前年同額)
空調設備等 保守管理	日本空調 サービス(株)	随意契約	3,027,000円 (前年同額)
エレベーター 保守管理	オリックス・ファ シリティーズ(株)	随意契約	月額 78,000円 (前年同額)

1 第2期経営計画の策定

(1) 第2期経営計画の策定

- 第2期経営計画については、令和3年度から7年度までの5ヶ年間を計画期間とし、策定委員会および策定プロジェクトチームを編成し、第1期5カ年計画で進めてきた事業を土台に、継続すべき課題に加え、第8期介護保険法改正で示された新たな方向性を参考に、法人が取り組むべき方針と事業を整理し、法人役職員、地域関係者のご意見を踏まえ、令和2年3月の理事会承認を経て策定した。

(2) 新たな在宅系施設整備構想の策定

- 地域が求める需要に速やかに寄与していくとともに、特養に特化している当法人の経営バランスの改善を進めるため、第2期経営計画の最大目標として在宅系施設整備拡張計画を掲げた。
(構想案)
 - ・ 特養ほのぼのいぶきの移転拡張(19床→29床)
 - ・ ショートステイの拡張(1床→20床)
 - ・ デイサービスぽかぽかいぶきの移転拡張
(定員10人→定員30~40人)
- この方針に沿い、整備予定地として法人の隣接する農地の取得をめざし、地権者2名との所有権移転仮契約を締結し、地権者によって地積確定のための測量が実施された。

2 法人ブランド戦略の推進

(1) 広報の戦略的な取り組み

- ① オール岐阜企業フェスに応募しオンラインによるプレゼンテーションを行い、視聴した学生1名から施設見学の依頼を受けた。

- ② 垂井町巡回バスいぶき苑停留所が10月に開設されたことに伴い、バスボディにマグネット広告を行った。(デイサービスはつらついぶきの土曜営業の告知等)
- ③ 秋のボンマルシェ行事や管理栄養士の仕事紹介が記事掲載された。
- ④ その他、ホームページのリニューアルや新聞等に協賛し多様な広告を行った。

(2) 行政から認定されたブランドラベルの発揮

- 岐阜県介護人材育成事業者認定グレード1および岐阜県ワークライフバランスエクセレント企業の認定要件の維持に努め、当法人のグレード1を評価した求職者が1名入職した。

(3) 法人ブランドの深耕、発進

- ① コロナ禍の中ではあったが学習療法、夢の実現事業について、いぶき苑ブランドの定着化のため、外部の有識者を審査員に招き、実施成果の発表会をおこなった。
- ② 地域へのいぶき苑ブランドの深耕のため、町から受託している認知症カフェのほか、脳の健康教室およびおもちゃ図書館を垂井町との共同連携事業として助成を受け実施したが、いずれもコロナ禍により極度に制約を受けることとなった。

(4) いぶき苑開設40周年事業への対応

- 令和3年度にいぶき苑開設40周年を迎えるに当たり、説目を記念した行事を実施することで、内外へのアピールと役職員の絆醸成を目標に、40周年記念事業の企画プロジェクトを立ち上げ、職員アンケート等を実施し、記念イベント、動画作成、年表作成等が決定された。

3 法人経営の生産性の向上

(1) 多様な人が活躍できる介護現場の構築

- ① フィリピン外国人技能実習生2名について、平成2年3月から受け入れ、日本語学習と介護技術習得を指導した。1名は年度内にN3資格を得、残る1名は令和3年度早期の資格取得を目指す。また、コロナ禍で外国からの入国を前提とした技能実習生受け

入れが困難になったため、新たな外国人材確保について、国内在住の留学生、特定技能1など他の雇用手法も選択肢として考慮し、多方面の事業者から情報を収集した。

- ② 常勤介護職員を補助するため、雇用が比較的可能性の高い元気な高齢者層、子育て期間中のママなどを対象に、特定業務に特化したパート職員（入浴アシスタント、介護アシスタント）を定着化することで、介護業務の仕分けを確立し、常勤業務の生産性の向上を図った。

(2) 柔軟な勤務シフトの推進

- ワークライフバランスが重要視される時代の潮流を受け、介護職員の働き方の選択肢を多様化するため、ユニットケア方式の別館に変形労働制の10時間勤務制度（実質週休3日）を、一昨年度の試行を踏まえ、本格導入を進めた。

(3) ICT・ロボット化等によるご利用者、職員双方の負担改善

- ① ICTによる業務効率の向上を図るため、職員間の情報連絡手段として、既存のPHSに代わり1人对複数人の一斉通信が可能で、機能的に汎用性のあるデジタル型インカムを導入した。
なお、インカム機能の端末として80台購入したアイポッドタッチを活用し利用端末の一元化を進めていく。
- ② 介護現場の高度化、職員の負担軽減、入居者の生活快適化につながる介護ロボットとして、従前から活用している赤外線見守りセンサー15台の追加購入に加え、新たに眠りスキャン36台、D f r e e 4台を導入した。
- ③ 職員ができる限り抱え上げない介護で腰痛の軽減化など、介護の負担軽減を進めるノーリフティングケアを推進するため、リフト2台のほか、スライディングボード、スライディングシート等の福祉用具を導入した。

(4) 収入財源の確保

- 基本的な介護利用収入については、いぶき苑別館の利用減が響き、特養全体の稼働率が対前年度比0.8ポイント減少した。
昨年度の特養全体の退所者数は44名(令和元年度退所者52名)で、退所者は減少しているものの、年間を通した延べ空室期間の上

昇が稼働率の低下をもたらしたと考えられるが、これは別館において顕著であり、入居者確保の課題が生じている。

- この中で、法人の自助努力による収入源として、介護報酬加算の可能な限りの確保に加え、補助金等、介護報酬以外の収入確保に努めた。とりわけ、感染症対策の補助金（補助率100%）、ロボット・ICT補助金（昨年度に限り補助率75%）を極力活用し、コロナ対策の徹底、及び先端技術の拡充による、利用者及び職員の安全確保、負担の軽減化を進めた。

<特養の稼働率、延べ利用者数>

	令和2年度	令和元年度	差し引き
	稼働率	稼働率	稼働率
	延べ利用人数	延べ利用人数	延べ利用人数
本館	97.2%	95.4%	1.8p
	21,292人	20,907人	385人
別館	95.6%	97.6%	△2.0p
	27,941人	28,524人	△583人
ほのほの	93.6%	97.6%	△4.0p
	6,492人	6,773人	△281人
特養合計	96.0%	96.8%	△0.8p
	55,725人	56,204人	△479人

<介護報酬加算一覧>

加算種類	令和2年度	令和元年度
日常生活継続支援加算	22,297,000	23,312,000
夜勤職員配置加算	9,313,000	9,426,000
排泄支援加算	24,000	84,000
精神科医療養指導加算	2,794,000	2,839,000
看護体制加算Ⅰ	2,769,000	2,831,000
看護体制加算Ⅱ	3,959,000	4,006,000

認知症専門ケア加算	598,000	182,000
褥瘡マネジメント加算	38,000	63,000
生活機能向上連携加算	0	160,000
栄養マネジメント加算	7,824,000	7,852,000
療養食加算	3,550,000	3,667,000
経口維持加算	800,000	756,000
経口移行加算	186,000	67,000
退所時相談加算	13,000	0
個別機能訓練加算	6,023,000	5,884,000
口腔衛生体制加算	570,000	579,000
口腔衛生管理加算	577,000	429,000
看取り介護加算Ⅰ	652,000	708,000
看取り介護加算Ⅱ	353,000	442,000
看取り介護加算Ⅲ	345,000	435,000
送迎加算	14,000	120,000
サービス提供加算	1,069,000	950,000
処遇改善加算	47,307,000	47,325,000
特定処遇改善加算	14,753,000	7,497,000
初期加算	480,000	1,315,000
合 計	125,731,000	120,929,000

<その他の補助金、助成金>

補助・助成金名	令和2年度	令和元年度
岐阜県介護人材確保対策事業補助	549,000	1,540,000
結核予防補助金・生活習慣病助成金	0	300,000

感染症緊急包括支援補助金	7,475,000	0
特定求職者雇用開発助成金	2,030,000	820,000
人材確保等支援助成金（介護福祉機器助成コース）	275,875	0
垂井町提案型協働事業補助金	170,600	200,000
岐阜県介護ロボット導入促進事業費補助金	9,043,000	0
岐阜県 ICT 導入事業費補助金	5,655,000	0
愛のともしび基金	750,000	0
その他	298,800	170,000
合 計	26,247,275	3,030,000

（５）働き方改革を踏まえた時間外労働の縮減

- 令和元年度、労働基準監督署の指摘も踏まえ年間18百万円計上した時間外労働による手当額については、ノー残業デイの徹底などにより、対策年度比40%にとどまった。

しかしながら、介護人材の不足解消などのため、令和2年度の増員が10名あったことから、人件費総額は36百万円余増加した。

（６）職員行動指針の明確化

- 法人理念、基本方針の考え方を具体化し、日常業務の中で守るべき基本的態度・行動を示すため、10項目からなる職員行動指針を定めた。

この指針に沿い、令和3年度から、各職員は人事考課制度の組織および個人の目標管理に折り込み実行することで、職員の資質向上に繋げていきたい。

4 危機管理体制の確立

（１）強靱な危機管理機能の拡充

- ① 新型コロナウイルス感染症対策

- 令和2年3月から5月、7月から8月、また12月から令和3

年2月にかけて、3回の感染拡大の波の中、国・県の通知を踏まえ、利用者、家族、職員、来苑者ごとに施設内感染防止対策を徹底してきた。

- 国のコロナ対策掛かり増し経費に対する助成を踏まえ、感染防止に必要な備品（自動検温器、自動消毒器、空気清浄機など）や用品（アクリル板、パーティションなど）を調達した。

（掛かり増し経費に対する助成金合計額 7,475千円）

- 国からの介護分野の職員への1人当たり5万円の慰労金助成を受け、法人の全職員に支給した。

（慰労金助成合計額 9,005千円）

- 万一の苑内感染の発生に備え、クラスター発生防止のため、感染対策物品を調達するとともに、「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を策定し、緊急時に迅速に対応に当たる感染症特別チームを編成した。

- 県老協の斡旋による、県内施設での感染クラスター発生時の福祉施設相互協力協定締結に向けた動きに対し、賛同の意思表示を行った。

- コロナ禍で面会や外出制限の長期化から、施設入居者のADL、QOLの低下が懸念されたため、苑内イベントを増やしたり、リビングのしつらえを整備するなど、潤いある生活に配慮した。

② 自然災害対策

- 災害対策訓練については、コロナ禍を踏まえ消防署の指導や地域住民等の協力は得られなかったが、消防法の定めに従いテーマを決めて必要な訓練を実施した。

- ・ 8月 全職員 初動対応研修、災害備蓄の説明
- ・ 11月 本館 昼間想定地震・火災訓練
- ・ 12月 別館 夜間想定地震・火災訓練
- ・ 2月 本館 夜間想定火災訓練

(2) ご利用者、ご家族の信託に応えるリスクマネジメントの確立

- 本別館の全フロアリビング及び廊下を死角なく録画するためのカメラを設置し、ご入居者の転倒等の事故検証と再発防止対策の適正化を進めた。
- ご入居者全員の転倒リスクを「転倒転落アセスメントシート」で評価し、介護時の注意喚起や、事故時の検証に活用した。

- 転倒リスクの高い入居者には、自立支援を尊重し家族の同意を踏まえ、転倒しても衝撃を緩和するプロテクターパンツやヘッドギア装着の普及を進めた。
- 施設内の危険箇所を総点検し改善を進めた。

5 地域介護ニーズへの対応

(1) 認知症対応型デイサービスの利用要望への対応

- 地域の利用ニーズの高まりを受け、令和2年12月から土曜日も利用を受け、週6日の営業体制を進めた。

(2) 居宅介護支援事業所の機能強化

- 地域の在宅介護や介護予防への需要増に應えるため、9月に介護支援専門員1名を採用し、5名体制に強化した。

II ご利用者・ご家族支援の充実、強化

1 専門的な質の高いサービスの提供

(1) ご利用者状況

ア 施設稼働率

単位(%)

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
本館	97.2	95.4	96.7
別館	95.6	97.6	98.1
ほのほのいぶき	93.6	97.6	94.0
合計	96.0	96.8	97.1

イ 要介護度区分状況

本館	R3.3.31			R2.3.31		
	男性	女性	計	男性	女性	計
要介護2	1	2	3	1	2	3
要介護3	9	9	18	8	8	16
要介護4	6	15	21	6	21	27
要介護5	4	14	18	4	8	12
合計	20	40	58	19	39	58
平均	3.7	4.0	3.9	3.7	4.0	3.9

別館	R3.3.31			R2.3.31		
	男性	女性	計	男性	女性	計
要介護1	0	1	1	0	1	1
要介護2	0	3	3	0	4	4
要介護3	7	17	24	7	15	22
要介護4	5	21	26	7	21	28
要介護5	7	19	26	7	15	22
合計	19	61	80	21	56	77
平均	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	3.8

ほのぼの	R3.3.31			R2.3.31		
	男性	女性	計	男性	女性	計
要介護 2	0	1	1	0	0	0
要介護 3	1	8	9	2	6	8
要介護 4	1	5	6	0	3	3
要介護 5	0	3	3	0	8	8
合計	2	17	19	2	17	19
平均	3.5	3.6	3.6	3.0	4.1	4.0

ウ ユニットケア体制の確立

入居者が相互に社会的関係を築き、かつ一人ひとりがくつろげる空間を提供し、ユニット毎の特色や雰囲気を出すため、6月にしつらえコンテスト開催した。

	令和 2 年度	累積受講者
ユニットケアリーダー研修受講者	2	14

エ 地域密着型にふさわしいケアの確立（ほのぼのいぶき）

運営推進会議開催

	開催日程	内 容
第 1 回	書面開催	<ul style="list-style-type: none"> • 運営状況 • 活動報告 • 事故等報告
第 2 回	書面開催	
第 3 回	9 月 17 日（木）14：00～15：00	
第 4 回	11 月 19 日（木）14：00～15：00	
第 5 回	1 月 21 日（木）14：00～15：00	
第 6 回	書面開催	

（2）自立支援に向けた心身機能の維持、向上

全入居者に対し、個別機能訓練計画に基づく機能訓練を実施した。

ア 重度化防止の推進（個別機能訓練加算） 単位（円）

	令和2年度加算額	令和元年度加算額	平成30年度加算額
本館	2,257,080	2,017,000	653,520
別館	3,061,200	2,712,000	1,829,520
ほのぼの	705,360	499,000	0
合計	6,023,640	5,228,000	2,483,040

イ 経口移行・経口維持システムの強化

いつまでも口から摂取できるように栄養ケア計画を作成し、看護職員等と連携を図る体制を構築し、経口維持の推進に努めた。

経口移行加算

	令和2年度		令和元年度	
	加算額（円）	対象者数（人）	加算額（円）	対象者数（人）
本館	50,400	1	0	0
別館	135,240	1	67,200	1
ほのぼの	0	0	0	0
合計	185,640	2	67,200	1

経口維持加算

	令和2年度		令和元年度	
	加算額（円）	対象者数（人）	加算額（円）	対象者数（人）
本館	236,000	10	304,000	10
別館	424,000	12	352,000	15
ほのぼの	140,000	4	104,000	5
合計	800,000	26	760,000	30

エ 排せつにかかる要介護状態の軽減（排せつ支援加算）

排せつ支援においては適宜医師と連携した看護師が排せつに介護を要する原因等について分析し、支援計画を作成して排せつ支援加算を取得した。排泄の自立に向けた対象者の選定が困難であった。

単位(円)

	令和2年度加算額	令和元年度加算額	平成30年度加算額
本館	12,000	21,000	40,000
別館	2,000	42,000	43,000
ほのぼの	10,000	21,000	12,000
合計	24,000	84,000	95,000

オ 介護職員によるたん吸引実施体制の整備

介護職員によるたんの吸引研修においては、継続的に研修に参加し、昼夜を問わず、介護職員による胃ろう介助・たん吸引を実施した。

区 分	令和2年度 取得者(名)	累積取得者 (名)
介護職員等によるたん吸引研修(50時間)	5	50

カ 褥瘡発生を予防と改善(褥瘡マネジメント加算)

褥瘡ケアマネジメントにおいては褥瘡ケア計画を作成し、定期的に評価を行い、褥瘡の予防・改善を図った。

単位(円)

	令和2年度加算額	令和元年度加算額	平成30年度加算額
本館	23,500	23,200	10,500
別館	31,100	31,100	14,300
ほのぼの	7,100	7,400	3,400
合計	61,700	61,700	28,200

キ 口腔衛生管理の充実

口腔ケアに関して、歯科医の指示を受けた歯科衛生士が、入所者に対し月2回以上口腔ケアを行い、介護職員に対して具体的な技術的助言及び指導を行う事により、口腔衛生管理の充実を図った。

	令和2年度		令和元年度	
	対象者数 (人)	口腔衛生管理加算額 (円)	対象者数 (人)	口腔衛生管理加算額 (円)
本館	230	207,000	167	150,300
別館	345	310,500	232	208,800
ほのぼの	67	60,300	72	64,800
合計	642	577,800	471	423,900

(3) 「夢の実現」を目指す介護の定着

職員一人ひとりが、ご利用者の残された人生に潤いを与えるライフプランナーとして、ご利用者それぞれの抱く思い、夢、希望を、家族、地域との交わりの中で聞き取りを実施し、「夢の実現」に当たっては、夢の目的達成に向け、必要に応じた手段として学習療法や機能訓練など多職種が連携しご利用者、職員双方が達成感と新たな夢に挑戦するモチベーションにつなげた。また、設立40周年記念プレ事業として夢の実現発表会を実施した。

夢の実現取り組み状況

	夢の聞き取り数	夢の取り組み数
本館	45	21
別館	85	51
ほのぼの	20	15
合計	150	87

夢の実現発表会（設立40周年記念プレ事業）

日時：令和3年2月3日（水）14：30～16：00

ユニット名	題
やすらぎ	「ご飯が食べたい」
ほほえみ	「手押し車で歩きたい」
ひだまり	「双子座流星群が見たい」
ほのぼの	「踊りたい」
椿	「こんにゃくを作りたい」
楓	「姪様にマフラーを渡したい」
葵	「外の景色を見せてあげたい、野菜作りをしてもらいたい」 「池田温泉に行きたい」
桜	「大きい刺繍に挑戦したい」

2 快適な日常生活の拡充

(1) 介護ロボット等を活用した、ノーマルディングケアの推進

	シルエット見守り センサー	眠りスキャン	DFree	床走行リフト
本館	6 (8)	10	2	1
別館	7 (14)	10	2	1
ほのぼの	2 (4)	16	0	0
合計	15 (26)	36	4	2

(2) 余暇活動の充実

行事名	実施日	延べ参加 人数	場 所
居酒屋「白寿」	7月14日(火)	67	別館 花ホール
居酒屋「赤ちょうちん」	7月22日(水)	48	本館各ユニット
縁日	8月26日(水)	44	本館 夢ホール
運動会	9月30日(水)	50	本館 夢ホール 及び各ユニット
運動会	10月7日(水)	69	別館各ユニット
かくし芸大会	11月11日(水)	40	本館 夢ホール

(3) 食事提供の充実

イベント名	回数	備 考
焼き芋	2回/ユニット	
栄養士手作りおやつ	1回	バレンタインデザートプレート
厨房手作りおやつ	12回	酒饅頭、クリスマスケーキ等
敬老の日	1回	お祝い膳
寿司御膳	1回	

(4) CS(customer satisfaction)改善の推進

職員がおもてなしの心でご利用者の穏やかな生活ができるよう、総務部内に専門部署を配置し、施設内研修時に接遇・マナー研修を4回実施し、接遇に関する意識改革を行うなど積極的にCS改善の推進を図った。

(5) 家族の会の活動について

これまで総会や講演会を年1回開催し、年間の事業・決算予算、介護に関する情報を提供していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、総会は中止し、役員会のみ開催した。

開催日	行事名	内 容
令和2年7月30日(木)	役員会	<ul style="list-style-type: none">令和元年度の事業、会計報告令和2年度の事業計画、予算案家族会規約、活動について会費の使用方法について白寿会の事業報告白寿会の事業計画

3 認知症ケアの充実

(1) 認知症対応型デイサービスの利用要望への対応

令和2年12月より営業日を週6日に拡大したが、当初はあまり拡大の効果が表れなかった。巡回バスでの広報活動や居宅介護支援事業所への積極的な情報提供を行うことにより、令和3年3月にはご利用者の増加につなぐことができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率(%)	96.2	94.4	100	99.6	99.6	99.6
延べ利用者数(人)	254	237	264	275	250	263
月	10月	11月	12月	R3.1月	R3.2月	R3.3月
稼働率(%)	97.3	98.8	74.1	77.4	80.2	86.4
延べ利用者数(人)	257	250	241	223	231	280

(2) 実践的な学習療法実施体制の確立

認知症予防(改善)の取り組みとして、学習療法の効果をより高めるため、学習療法スタッフ29名に対し再研修を行い、週3回学習療法を実施した。

また、東海三県で行われているMAGネットで情報共有を行った。

外部研修及び交流

項目	内容
学習実践者数	21名
2020年度実践モデル施設のつどい (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> 代表メッセージ 学習療法センターより実践事例紹介 情報提供 グループコミュニケーション
2020実践研究WEB発表	・2事例(学習療法・脳の健康教室)

(3) 認知症ケア体制の強化

新型コロナウイルス感染症対策の為、認知症介護実践者研修、認知症介護リーダー研修は開催されなかった。

研修名	受講者数累積(人)
認知症介護実践者研修修了者	38
認知症介護実践者リーダー研修修了者	16

4 ご利用者の要望に沿った看取り介護の充実

(1) 看取り体制の整備

ア 看取り介護指針等の整備

社会福祉法人白寿会看取り介護指針の見直し、改訂した。

看取り介護状況

	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	件数	加算額(円)	件数	加算額(円)	件数	加算額(円)
事業所						
本館	6	227,920	15	806,000	10	492,960
別館	17	752,640	11	660,400	8	372,880
ほのぼの	6	370,960	7	301,920	6	229,620
合計	29	1,351,520	33	1,768,320	24	1,095,460

5 安心安全な施設づくり

(1) 事故対策・事故予防体制の整備

防ぐべき事故と防げない事故を明確にし、それぞれの事故について分析を行った。また、事故の要因として、本人要因、環境要因、職員要因に分け対応を行った。

- ・ 環境要因としては施設の用具・設備の管理や不備によって発生する事故を防ぐ取り組みの為、全職員に施設内危険箇所点検表を配布し、優先順位を決めて改善した。
- ・ 本人要因としては転倒・転落アセスメントシート（3か月に1回実施）を活用し転倒リスクの高い方の把握を行った。また、プロテクターパンツ、ヘッドギアなどを推奨し、骨折などの防止を行った。
- ・ 職員要因としては、急変時の対応について（誤嚥）についての研修や誤薬を防ぐための研修を行った。その他、本館、別館に見守りカメラを設置し、事故検証、再発防止に努めた。

事故状況

区分	内容	令和2年度	令和元年度	平成30年度
行政報告事項 (1ヶ月以上の入院)	骨折	3	5	3
行政報告事項 (1ヶ月以内の入院 または通院)	皮膚剥離等	11 (骨折8)	11 (骨折4)	7 (骨折5)
その他 不適合案件	転倒及び転落	138	104	199
	服薬管理	12	11	28

危険箇所点検

事業所	改善済	内容
本館	15	ベッド柵備品の購入 福祉用具の交換、購入 必要備品の購入、整理整頓
別館	10	ベッド柵備品の購入 壁・ドアの修理 家具の固定 備品の修理
ほのぼの	14	家具の整備・固定 ケア体制の変更
ほかほか	3	ベッドの位置変更 室内はフローリングスタイルに変更
はつらつ	4	スロープの設置 業務体制の変更

福祉用具の活用

	プロテクターパンツ	ヘッドギア	シルエット見守りセンサー
本館	6	0	6 (8)
別館	15	4	7 (14)
ほのぼの	1	0	2 (4)
計	22	4	15 (26)

(2) 災害対策の徹底

社会福祉法人白寿会事業継続計画（BCP）を活用した防災計画に沿って机上訓練も含め防災訓練を4回実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の為、8月に初動対応訓練内容の研修を実施した。

備蓄品については備蓄場所を明確にするとともに、ご入居者及び職員が3日間維持できる分量を確保した。なお、給食委託業者より全入居者向けの備蓄食品（3日分）の提供を受けた。

実施日	場所	概要
R2.8.13 R2.8.13 R2.8.25 R2.8.31	いぶき苑本館 いぶき苑別館	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVD 視聴による集合研修実施 < 内容 > ①水害の初動対応 ②地震の初動対応 ③火災の初動対応 ④防災設備について ⑤備蓄品について ・ 7月31日に召集メールのテスト送信を実施
R2.11.26	いぶき苑本館 (はつらついぶき含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震発生時初動対応訓練 ・ 日中の火災発生を想定した「非常通報・初期消火」及び「避難訓練」 ・ トランシーバー、インカムを活用し職員の連携行動についての訓練 ・ 防火扉を使用した避難誘導訓練
R2.12.9	いぶき苑別館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震発生時の初動対応訓練 ・ 夜間想定として、少ない人数でいかに迅速に避難誘導するための訓練 ・ 階層の為、火元フロアから優先的に避難誘導を行う訓練 ・ トランシーバー、インカムを使用し素早い

		<p>情報共有を避難誘導に活かす訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 炊き出し訓練（必要物品がどこにあるのかを確認し、備蓄品置き場から一食分の食事の準備を行う訓練 火災を想定した「非常通報・初期消火」及び「避難訓練」
R3.2.16	いぶき苑本館	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生時初動対応訓練（炊き出し訓練） 夜間火災発生を想定した「非常通報・初期消火」及び「避難訓練」 インカム、トランシーバーを活用し職員の連携行動を行うための訓練 火元のユニットを優先的に避難させる訓練

（３）身体拘束、虐待防止の適正化の推進

身体拘束、虐待防止委員会

	開催日	内 容
第 1 回	R2.5.27	・スピーチロックの意識改革
第 2 回	R2.8.28	・スピーチロックの意識改革 ・職員研修内容
第 3 回	R2.11.25	・スピーチロックアンケート結果 ・10月職員研修結果
第 4 回	R3.2.26	・外部研修参加 「不適切ケア・虐待防止研修」 「虐待にならないスピーチロック回避研修」 ・令和 3 年度委員会開催予定

身体拘束、虐待防止職員研修

開催時期	内 容
10 月	各部署会議にて「高齢者虐待の防止」DVD 視聴研修
11 月	各部署会議にて「不適切ケア」DVD 視聴研修

(4) 感染症予防の推進

感染症委員会開催

会議名	日程	内容
臨時感染症対策会議	R2.4.17	新型コロナウイルス感染予防対策について
感染症対策会議	R2.6.4	感染症対策について
臨時感染症対策会議	R2.7.30	新型コロナウイルス感染予防対策について
臨時感染症対策会議	R2.8.4	新型コロナウイルス感染第2波非常事態宣言発令のため感染症対策について
感染症対策会議	R2.9.3	新型コロナウイルス感染第2波非常事態宣言解除による感染症予防対策について
感染症対策会議	R2.12.7	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策 ・疥癬対応
感染症対策会議	R3.3.3	新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言解除による感染症予防対策について

(5) ご利用者の要望や苦情をすみやかに解決する体制の整備

会議名	開催日	内容
苦情解決委員会	R2.10.28	3件の苦情について検討
	R3.3.18	1件の苦情について検討
苦情解決第三者委員会	R2.11.17	<ul style="list-style-type: none"> ・3件の苦情解決事案の報告 ・施設サービスアンケート結果報告 ・令和2年度事業計画の実施状況報告

6 在宅系サービスの充実

(1) ティサービスほかほかいぶきの活動

ア 利用状況

区分	令和2年度	令和元年度	平成30年度
実利用者数（男性）	3	2	10
実利用者数（女性）	32	32	38
合計（人）	35	34	48
年間稼働率（％）	91.8	90.6	97.4

イ 機能の維持・改善

機能訓練指導員による個別機能訓練を実施し、身体機能の維持向上を図った。

個別機能訓練加算Ⅱ

	令和2年度	令和元年
対象者（人）	7	3
加算額（円）	222,320	5,600

ウ 運営推進会議の運営

	開催日程	内 容
第1回	R2.9.28	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策について ・ご利用者状況と施設活動状況 ・事故報告 ・個別機能訓練加算Ⅱについて
第2回	R3.3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者状況と施設活動状況 ・個別機能訓練に関する取り組みについて ・新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについて ・ご家族アンケート結果

エ 施設の地域開放

提供場所	延べ利用回数	延べ利用団体数
ぽかぽかいぶき	1	1

オ 家族会の開催

日 程	内 容	参加者
R2.11.19	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの活動報告 ・講演「機能訓練について」 ・交流会（参加者及び職員紹介） 	家族4名 ケアマネ3名

カ 災害対策（防災訓練）

日 程	概 要
R2.11.20	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地震を想定した防御訓練及び被害報告訓練 ・非常通報・避難誘導訓練
R3.2.22	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練（避難誘導訓練及び被害報告訓練） ・非常通報・避難誘導訓練

(2) 認知症対応型デイサービス「はつらついぶき」の活動

ア 利用状況

区 分	令和 2 年度	令和元年度
実利用者数（男性）	12	6
実利用者数（女性）	22	17
合計（人）	34	23
年間稼働率（％）	91.3	85.3

イ 身体機能の維持・改善

個別機能訓練加算Ⅱ

	令和 2 年度	令和元年度
対象者（人）	34	23
加算額（円）	785,160	600,480

ウ 運営推進会議の運営

	日 程	内 容
第 1 回	R2.9.28	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策について ・利用状況、活動報告、取り組みについて ・家族会アンケート報告 ・意見交換
第 2 回	R3.3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況及び活動報告 ・はつらついぶきの変化点 ・個別機能訓練について ・意見交換

エ 家族会の開催

日 程	内 容	参加者
R2.6 月開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の為に中止	デイサービスはつらついぶき満足度アンケート実施し、アンケート結果、調査の報告や今後の取り組みについての内容を書面にてご家族へ配布。	
R2.11.29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動報告、コロナ感染症対策 ・ はつらついぶきの取り組み ・ 写真、動画視聴 ・ アンケートに基づき意見交換 ・ ご家族意見集約報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族 10 名 ・ ケアマネ 3 名

(3) 短期入所生活介護(ショートステイ)の運用

ア ほのぼのいぶきに併設しているショートステイ利用状況

	令和 2 年度	令和元年度
利用者数 (人)	12	22
延べ利用日数 (日)	227	158
収入額 (円)	2,721,390	1,792,258

イ 特養の空床利用したショートステイ利用状況

	令和 2 年度	令和元年度
利用者数 (人)	7	6
延べ利用日数 (日)	109	69
収入額 (円)	1,018,270	828,150

Ⅲ 地域福祉の拠点となる施設の役割発揮

1 地域共生社会への取り組み

(1) 地域支援体制の確立

地域支援室を設置し、地域貢献事業についての検討や、垂井町提案型協働事業に関して行政と連携を図った。

(2) おもちゃ図書館の開催

新型コロナウイルス感染症について非常事態宣言が出されたりする中、事業開始から行っている施設内（別館 花ホール）での開催はできなかった。

10月18日に認知症対応型通所介護施設はつらつの駐車場等を会場に家族ごとの遊べるスペース「秘密基地」（段ボールを活用した手作り）を5か所に置き、9組の家族がおもちゃで楽しんでもらった。

7月から12月は、毎週おもちゃの貸し出しを行い20組の家族に貸し出した。

1月から3月においては、月ごとに1月はすごろくと福笑い、2月には節分に向けて鬼のお面、3月には作って遊べる魚釣りゲームと家庭において親子で遊べるような部品を会員に送付した。遊んだ様子をメールやラインで返信してもらえる家族もあり、感想も聞いた。

(3) 災害要支援者への対応体制と福祉避難所機能の発揮体制の確立

1名の介護職員が岐阜県社会福祉協議会の依頼を受け、一昨年参加した DWAT の実践についての発表を行った。

発表日 R2年10月12日、16日

2 地域の高齢者を支える仕組みづくりと推進

(1) 生きがいつくりに貢献する活動の場の提供

○ボランティア活動の場の提供

非常事態宣言が出されるなどコロナ禍において活動できず、入居者と触れ合うことはできなかったが、園芸（花壇の管理）についての活動は毎月定期的に行われた。

園芸グループの活動

実施月	参加人数	実施月	参加人数
4月	9人	9月	5人
5月	4人	10月	13人
6月	9人	11月	10人
7月	8人	12月	10人
8月	7人	R3.3月	7人

(2) 健康づくりに貢献する介護予防事業の実施

○脳と体の健康教室の開催

垂井町の提案型共同事業に応募し採択された。

広報「たるい」にも掲載し募集を行ったが、受講者は5人にとどまった。

実施期間を令和2年10月から令和3年3月として開催したが、コロナ禍でもあり、別館花ホールで行うことができず、垂井町の中央公民会館を会場とした。感染防止策としてビニールを活用した手作りのものやアクリル板を活用し感染予防に努めた。

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
開催期間	10月27日～ 3月23日	7月2日～ 12月10日	6月19日～ 12月4日
受講者数	5人 (男性3人・女性2人)	10人 (男性7人・女性3人)	8人 (男性7人・女性1人)
サポーター数	3人	7人	7人
交流会	開催できず土産として菓子を提供	鍋パーティー	鍋パーティー

5年間継続して実施してきたが、募集しても受講者がなかなか集まらず、事業を検証し、より多くの住民が参加でき健康に過ごせる事業について検討していく。

(3) 認知症高齢者と介護者を支える仕組みづくり

受託事業の「認知症カフェ」は垂井町との協力体制のもと実施したが、コロナ感染症の緊急事態宣言等が出ることにより、年間3回のみでの開催となった。

開催日	参加者数	内 容	担 当
R2.10.18	28 人	講演「コロナ感染症予防対策について」	看護職員
R2.11.20	25 人	公園「地域資源について」	垂井町役場
R3.3.26	28 人	和太鼓演奏	介護職員

3 地域の担い手づくり推進

福祉教育への貢献

講師としての貢献

出向いた先	内 容	回 数
西濃高等特別支援学校	介護初任者研修講師	3 回 (10/28 10/30 11/4)
垂井町立不破中学校	職業講話	1 回

実習受け入れ

学 校 名	内 容	人 数
中部学院大学短期大学部 (10 日間)	介護実習	5
西濃高等特別支援学校	職場実習	1

4 地域の中の法人としての活動

(1) 行政との連携

受託事業：認知症カフェ

提案型共同事業：おもちゃ図書館、脳の健康教室

上記 3 事業について地域貢献室を通し、行政とのつながりを持った。

(2) 地域や利用者ニーズへの対応

ア 施設行事等を介しての地域における世代間交流の促進

従来、地域の方々との交流事業として開催している夏祭りは、コロナ禍で密になることから地域の方々の参加は断念し、入居者が楽しんでもらえるような形で内部のみで開催した。

ボンマルシェは、10月18日に認知症対応型デイサービスはつらついぶきの駐車場等を会場に午前は「認知症カフェ」、午後は「おもちゃ図書館」と合同開催した。

予約制とし、参加人数も限定し、来場時には検温するなど感染予防に努めた。

来場者数：34人

イ ひな人形見学会の開催

本館・別館とも玄関に一基ずつ展示したが、コロナ禍であり見学会の開催はできなかった。別館は、各フロア・ユニットにそれぞれ1基ずつ展示し入居者の方々に喜んでいただけた。

ウ コミュニティバス停留所の確保

令和2年10月に垂井町コミュニティバス停「いぶき苑」が設置された。数名の方が巡回バスを利用し来苑された。

(3) 居宅支援事業所と在宅介護支援事業所

令和2年9月から新規介護支援専門員が入職し、5人体制となった。特定事業所Ⅱとして1件4,000円の加算も受け活動している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
支援1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	10
支援2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
介護1	40	41	43	44	44	43	42	41	38	37	37	38	488
介護2	45	47	45	46	49	49	48	47	45	45	47	52	565
介護3	24	18	19	19	18	17	18	18	18	19	21	21	230
介護4	10	11	11	10	13	12	14	15	17	18	21	20	172
介護5	6	7	5	6	7	8	8	8	8	9	8	9	89
月間	126	125	123	125	131	130	132	131	127	130	135	142	1557

IV 職員が生きがいと働きがいのある職場づくり ～ワークライフバランスの取組の推進～

1 人材の確保と育成

(1) 人材の確保

ア 職種別職員の状況

(単位：人)

区分 職員 区分	R2. 3.31 現在 ①	R2. 4.1 入職 ②	R2 年度 離職 ③	R2 年度 中途 入職 ④	R2 年度 増減 ⑤=② +③+ ④	R2 年度 異動 増減 ⑥	R3 3.31 現在 ⑦=① +⑤+ ⑥	R3 年度 異動 増減 ⑧	R3. 4.1 入職 ⑨	R3. 4.1 現在 ⑩=⑦ +⑧+ ⑨
○職員総数	150	8	△18	19	9	0	159	0	7	166
・正職員	76	5	△2	5	8	1	85	△2	5	88
介護職員	49	5	△1	3	7	0	56	0	2	58
看護職員	6	0	0	0	0	0	6	△2	1	5
機能訓練指導員	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2
生活相談員	3	0	0	0	0	0	3	0	0	3
その他職種	16	0	△1	2	1	1	18	0	2	20
・その他職員	74	3	△15	13	1	△1	74	2	2	78
介護職員	32	0	△4	2	△2	1	31	0	0	31
入浴介助	5	1	0	3	4	△1	8	0	0	8
介護アシスタント	5	0	△1	0	△1	0	4	1	0	5
看護職員	8	1	△3	1	△1	△2	5	2	0	7
その他職種	24	1	△7	7	1	1	26	△1	2	27

イ 職員離職率

年 度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
正規職員のみ	2.5%	10.3%	11.2%
法人職員全体	5.4%	12.2%	11.4%

- ・ 正規職員 (令和2年4月1日現在 81名 離職者2名)
- ・ 法人職員全体 (令和2年4月1日現在148名 離職者8名)

※ 離職率は、定年による離職者、派遣期間終了者及び勤務期間1年未満の離職者を除いて算定

ウ 外国人技能実習生の受入れ・育成

令和2年3月に受け入れた外国人技能実習生2名については、「介護技能実習評価試験」に合格（令和2年12月）し、介護報酬上の常勤職員として算定され、夜勤研修を行うなど順調に実習を進めている。

予定していた第2期生については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国人の入国が出来ない状態が続き、受け入れに至っていない。

エ 障害者雇用

令和元年度に職場体験を行った特別支援学校高等部の生徒を介助員として雇用した。

(2) 人材確保に向けた環境整備

ア 効果的な広報宣伝活動の実施

施設HPの内容更新、オール企業フェス（Web 合同会社説明会：岐阜県産業人材課主催）への出展など様々な広報媒体を使って人材確保を進めた。

広報媒体	主催等	広報内容等
いぶき苑 HP	白寿会	内容の更新(HP 閲覧による求職者数 11 名うち 6 名を採用)
オール企業フェスへの参加	岐阜県産業人材課	法人で作成した On-Line 動画配信による企業説明会開催（1 名施設訪問）
オンライン企業動画の発信	岐阜県高齢福祉課	オンライン企業合同説明会で配信（岐阜県介護人材育成事業者認定制度グレード1 取得事業者対象）
「笑顔つなぐ福祉の輪」掲載	岐阜新聞社	10 時間勤務制を紹介
「マナビのトビラ」掲載	岐阜新聞地域情報誌	高齢者福祉施設で働く管理栄養士を紹介
巡回バス広告	垂井町	いぶき苑の広報マグネットシート

イ 実習生の受け入れ（再掲）

コロナ禍で学生の実習受け入れが困難な中で、感染者の発生が少ない時期に、実習生の感染リスクが少ない通勤方法や受け入れ時間の設定を行い中部学院大学短期大学部の学生5名の実習を行った。

また、西濃高等特別支援学校の職場実習として、1名を受け入れた。

ウ 職員紹介制度の活用

職員自らがリクルート要員としての意識を督励喚起し、人材確保を進めた。

【参考：応募区分ごとの求職者の状況】

応募区分	応募者数	採用者数	採用職種・人数
ホームページ	11名	6名	介護 6
ハローワーク	15名	5名	運転手 2、事務 3
<u>職員紹介</u>	<u>7名</u>	<u>7名</u>	<u>介護 2、ケアマネ 1、 事務 1、営繕 1、宿直 2</u>
紹介会社	6名	2名	看護師 1、管理栄養士 1
計	39名	20名	

(3) 定着につながる職員の育成

ア 職員行動指針の明確化

法人理念、基本方針に則り、日常業務を遂行するために、職員が守るべき基本的態度・行動のあり方を共有するため、職員が主体的に関わり、法人職員共通の行動指針を策定した。

また、法人行動指針を踏まえ、各部行動指針及び各部署「組織目標」を策定するとともに、組織目標を達成するために、職員と上司が話し合う中で各職員の行動計画を決め、上司が支援を行うことで、職員の育成につなげた。

イ 若手リーダーの登用・育成

新たに2名の若手職員をユニットリーダーに登用するとともに、外部講師による伴走型リーダー研修を実施した。また、昨年度登用した若手リーダーに対しては、リーダーとしてのスキルアップを図るためのフォローアップ研修を実施した。

ウ 新規採用者向けプリセプター制度等

新規採用職員 3 名（大卒 1、短大卒 1、高卒 1）に対してプリセプターを付け、業務の指導や精神面のケアを行うことで、新規採用職員の育成・定着につなげた。

また、昨年度 3 月に入職した外国人技能実習生に対しては、プリセプターを配置するほか、アパートでの生活ルールの指導や買い物の支援など日本での生活になじめるよう、生活指導員 2 名を配置した。

エ 職員育成に繋げる人事考課体制の確立

これまでの人事考課方式を進めるとともに、職員行動指針策定を機に、職員個人が定めた目標の達成状況を評価に加える「個人目標評価制度」の試行を行った。今後、試行結果を踏まえ、人事考課方式の修正を検討する。

2 職員がモチベーションを保持し、不安なく生活ができる職場づくり

(1) 職員の処遇改善

ア 働き方改革への対応

働き方改革に沿った「同一労働、同一賃金」については、社会保険労務士を交えて、正職員と非正規職員の勤務形態（休日勤務・夜間勤務等）や責任の度合の検討を行い、雇用条件設定の明確化を図った。

イ 特定処遇改善手当

令和元年 10 月に適用された介護職員等特定処遇改善加算については、介護従事者以外の職員を含め、国で示された配分ルールに加え、介護賃金水準・業務の質・定着度合・専門性に応じた配分係数による支給額を設定した。

(2) モチベーション保持につながる方策

ア 職員提案制度の推進

職員から提出された改善提案について、委員会で関係部署と改善策について調整を行った上で、運営会議においてその実効性を議論し、実行することにより、職場環境の改善や業務の効率化に取り組んだ。

○令和 2 年度改善提案件数 36 件

イ 「個人目標評価制度」の試行

人事考課に個人目標評価を加えることを目指し、令和2年度下期に試行を開始した。目標設定における職員と上司の話し合いに加え、目標達成に向けた上司の支援により、職員が意欲的に業務に取り組むことができた。

ウ 法人ブランド戦略の推進

学習療法や ICT/ロボットの導入などいぶき苑の先進的な取り組みの紹介や福祉教育への貢献等による「いぶき苑ブランド」の形成・見える化に貢献した職員、部署を表彰した。

項目	内容
学習療法実践発表	学習療法の取り組みを WEB 発信
介護労働安定センターでの発表	ICT/ロボットの導入及び活用について
DCAT ビギナー研修 (災害派遣状況報告)	令和元年台風 19 号により被災した埼玉県の高齢者施設での活動報告
職業講話 (不破中)	生徒に対する介護の仕事に関する講話
研修講師 (西濃高等特支)	介護初任者研修
オール企業フェス	いぶき苑紹介動画の制作・On-Line 出演
オンライン企業合同説明会	いぶき苑紹介動画の制作・WEB 配信 (岐阜県介護人材育成事業者認定制度グレード1取得事業者対象)
ユニット設えコンクール	ユニットリビングの心地よい設え提案によるユニット型施設の魅力向上に寄与

3 働きやすい職場環境の整備

(1) 新はつらつ職場づくり宣言の履行

勤怠管理システム「育護 NAVI」の活用により、労働時間の適正な把握に努め、時間外労働の削減につなげた。また、WLB 委員会による各種活動により、ワークライフバランスの推進に努めた。

○活動内容

・産休・育児休業取得者支援活動 （女性2名、男性2名が育児休業取得）
・毎週水曜日の「NO残業デイ」の継続的啓発 （サイボウズ掲示板・職員通用口に定時退勤を促すポスター掲示）
・「私のON/OFF自慢」コンテスト実施 （家族の職場に対する理解促進と職員間のより良い関係づくりのため職員のON/OFFの写真パネルを作成し、職員による投票を実施）

（2）新たな勤務シフトの導入

昨年度、いぶき苑別館の1フロアで試行した「10時間勤務シフト」を各フロアに拡大し、人材確保が困難な状況下における勤務体制確保と、休日の増加による職員のライフスタイルの満足度向上につなげた。

（3）メンタルヘルスケアの充実

令和2年10月に全職員を対象にストレスチェックを実施し、個人単位でストレス要因や心身のストレス反応等についての判定結果を通知し、職員個人のセルフケアにつなげた。

（4）業務の省力化に向けての取組み

ア 「育護NAVI」によるシフト編成

令和元年度に導入した勤怠管理システム「育護NAVI」を利用し、勤務シフトの作成につなげ、複雑で細かなシフト作成を支援することで、作成者等の負担軽減につながった。

イ 時間外労働時間の低減

時間外勤務の事前命令・承認の徹底と育護NAVIの適正な労働時間把握により、時間外勤務を低減した。

（5）身体的、精神的負担の軽減

ア ノーリフティングケア・システムの構築

ノーリフティング推進プロジェクトチームを編成し、ノーリフティングケアの理念の普及に努めるとともに、移乗用リフトやスライディングシートの導入を進め、介護者の精神的・身体的負担軽減を図った。

○移乗用リフトの導入 2台

- イ ICT・ロボットの積極的な導入・活用による、職員の負担軽減
 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国の補正予算を活用した補助率の高い県の補助事業の採択を受け、各種のICT・ロボットの導入を図り、入居者のケア充実に努めるとともに、職員の介護負担軽減を図った。

機器	台数	機能・効果
見守りセンサー	15	利用者の様子が常時把握でき、定期的な訪室の必要がなく、介護の効率化が図れた。
眠りスキャン	36	モニターで睡眠の様子を確認でき、必要な時に介助ができた。また、データを基に睡眠状態を把握、分析、状態に合わせたケア方法に改善できた。
排泄予測装置 D-Free	4	必要な時にトイレ誘導を行う事で、パットへの失禁なくトイレで排尿が 出き、利用者も清潔保持と皮膚トラブルの減少につながった。
インカム iPod-touch	80	ユニット職員全員に情報共有がスムーズに行えた。夜勤時の緊急対応にも他の夜勤者に連絡ができ、精神的な負担が軽減した。

(7) 働きやすい環境づくり

- 職員との面談実施

職員と上司との定期的な面談（人事考課フィードバック）や施設長や事務局長との個人面談において、職員の意向、要望、悩みを聞き取り、職員が働きやすい環境づくりに努めた。

4 職員が自らのライフスタイルを保てる職場環境、つながりづくり

(1) 休暇制度の充実

- ア 有給休暇の計画的消化の推進

労働基準法による年次有給休暇5日以上の取得については、100%達成したものの、平均取得日数が大きく落ち込んでいる。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、旅行目的のリフレッシュ休暇の取得が進まなかったことが大きな要因と考えられる。

取得率 区分	対象人員(人)			平均取得率(%)			平均取得日数(日)		
	R2	R1	H30	R2	R1	H30	R2	R1	H30
全職員	138	138	148	61.7	72.2	69.3	9.5	10.9	10.4
正職員	82	91	90	59.4	66.3	63.0	10.2	10.6	10.7
パート職員	56	48	58	61.1	85.8	83.7	8.5	11.5	9.9

イ リフレッシュ休暇・アニバーサリー休暇の取得

有給休暇の取得日数低下と同様に、リフレッシュ休暇の取得率が毎年減少してきており、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が一因であるとも考えられるが、計画的に取得できる環境づくり求められる。

○リフレッシュ休暇の取得状況

年 度	全体取得率	うち介護職員の取得率
令和2年度	69.2% (63名/91名)	78.7% (48名/61名)
令和元年度	75.8% (69名/91名)	86.2% (50名/58名)
平成30年度	94.4% (85名/90名)	100% (60名/60名)

また、令和元年度に創設したアニバーサリー休暇については、昨年度より若干取得率が向上したが、完全取得に向けた取り組みが必要である。

○アニバーサリー休暇の取得状況

年 度	全体取得率	うち介護職員の取得率
令和2年度	84.6% (77名/91名)	83.6% (51名/61名)
令和元年度	82.4% (75名/91名)	81.0% (47名/58名)

(2) 仕事と育児・介護が両立できる支援

ア 岐阜県ワークライフバランス推進エクセレント企業認定更新への対応

令和3年度に「岐阜県ワークライフバランス推進エクセレント企業」事業者の再評価が行われるため、評価対象の26項目について、法人の取り組み状況を確認するとともに、認定指標に届かない項目について対応策を検討・実施した。

イ **男性職員が育児休業を取得しやすい環境の整備**

令和2年度には、2名の男性職員が育児休業を取得し、法人HPや県が企画した企業紹介動画で広報することにより、岐阜県ワークライフバランスエクセレント企業としての取り組みをアピールした。

ウ **「私の職場自慢・私のON・OFF自慢」展の開催（再掲）**

コロナ禍の中、家族の職場参観ができない中で、いぶき苑での働く姿や一緒に働く仲間、充実したプライベートの写真やコメントを掲載したパネルを製作し、いぶき苑HPで公開することにより、家族の仕事に対する理解促進と職場の仲間のより良い関係づくりを進めた。